



中央地区社会教育情報誌「つなぐ」No.49号をお届けします。

今年度も残すところあとひと月余りとなりました。この3年に渡って世界中で猛威を振るい続け、多くの死者を出し、社会・経済活動を停滞させてきた新型コロナウイルス感染症ですが、未だに感染の波は繰り返されつつも、WHOが「トンネルの終わりの光が見え始めた」と表現し、国や県が「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」の一部変更に伴い、イベント・行事等に関する開催制限の目安を見直すなど、徐々にではありますがコロナ前の日常活動を取り戻しつつあります。

昨年10月下旬から12月上旬にかけて、中央地区9市町村教育委員会の生涯学習・社会教育主管課を、県生涯学習課中央地区担当者が訪問させて頂きました。皆さんの今年度の取組の成果や課題等をお聞きするとともに、下記の課題について協議を行うことができました。

今回の訪問で伺った内容は、今後の県や中央地区の生涯学習・社会教育に関する施策や事業運営の参考にさせていただきます。お忙しい中、快く受け入れて下さりありがとうございました。

市町村名	市町村協議課題
秋田市	「学習支援体制の充実～ICT等を活用した効果的な学習情報の発信に向けて～」
男鹿市	「地域拠点化を目指す公民館のコミュニティセンター化と3つの市民運動の展開について」
潟上市	「障害者の生涯学習支援事業の進め方について」
五城目町	「誰もが学べる環境づくりに向けて～『みんなの学校』を中心に～」
井川町	「ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた事業や講座の実施について」
八郎潟町	「放課後活動及び家庭教育支援活動に関わる地域人材の発掘と育成について」
大潟村	「共生社会の実現に向けた生涯学習支援事業の進め方について」
由利本荘市	「社会情勢に対応した今後の公民館の役割について」
にかほ市	「放課後子ども教室の運営について」

計画訪問での協議会の様子

特色ある協議会を設定して下さった2市の協議会の様子を紹介します。

由利本荘市では、計画訪問を担当する市生涯学習課佐々木主事（社会教育主事）の企画をもとに、市生涯学習課の4名の職員の他、市内各地区学習課や地区公民館の職員を交えて、付箋紙を使ったワークショップ形式で協議を行いました。

協議では、県あきた未来創造部の「コミュニティ生活圏形成事業」を活用し、閉校した小学校を会場に夏祭りや文化祭を開催し、多くの参加者が訪れた実践例など、様々な取組の成果も報告されました。

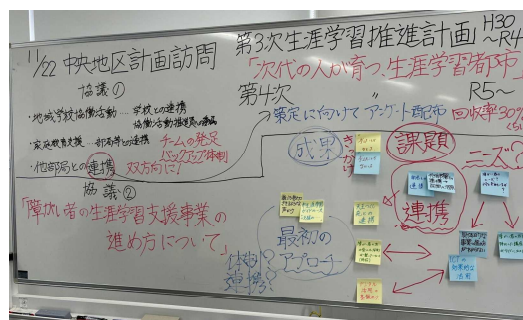
人口減少に伴い、施設の統廃合、組織の見直しなどの必要性に迫られる中、課題について率直な意見交換が行われました。



【由利本荘市：協議会の様子】

潟上市では、協議課題に対応するために県生涯学習課で当該事業を担当する長崎社会教育主事が同行し、「障害者の生涯学習の推進を担う人材の在り方検討会議のまとめ（報告）」を用いて、具体的な事業の進め方について説明をしました。その後の協議では、参加者の意見をもれなく協議に反映させるために、ホワイトボードと付箋紙を使用しました。

出された意見を整理したことで、現状や課題を全員で共有することができました。今後は、障害者施設や市の福祉課、自立支援協議会、障害者スポーツ協会とつながり、情報を共有し、市が取り組むべきことを明らかにした上で事業を進めていくことも確認することができました。



【潟上市：付箋紙を用いた協議の整理】

令和4年度 中央地区各市町村の特色ある事業・取組の紹介

今年度、中央地区の各市町村生涯学習・社会教育主管課室で実施した特色ある事業・取組について紹介します。各市町村の御担当者の皆様、情報提供ありがとうございました。

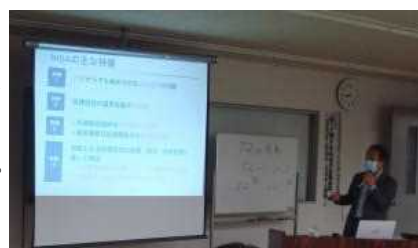
秋田市

『知って得するお金の基礎知識 ～ iDeCo・NISA・ふるさと納税～』

10月4日（火）、秋田県生涯学習センターを会場に、秋田県金融広報委員会と連携した青少年教室「知って得するお金の基礎知識～iDeCo・NISA・ふるさと納税～」を開催（19名参加）しました。

まず、講師の方から「情報収集の大切さ、自らが考え・判断し・行動する力」の大切さについてのお話があり、その後、お金のため方について、iDeCo・NISA・ふるさと納税の順に、それぞれの仕組みや活用法についてテンポよく説明がありました。ふるさと納税の説明では、「ふるさと納税サイト」をWEB表示し、実際にふるさと納税に使える金額を算出する実践例を示され、参加者はふるさと納税の理解を深めることができました。

参加者からは、「興味があるがどのように取り組めばよいか分らなかったのも、とてもためになる話でした」「知りたいことをピンポイントで聞くことができました」などの感想が寄せられ、参加者のニーズに応えることができた講座となりました。



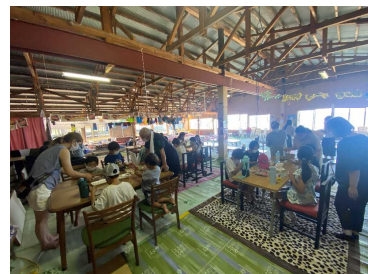
男鹿市

『放課後子ども教室×奨励員 夏休みワークショップ』

いつもは放課後の空き教室を利用している放課後子ども教室ですが、今年度は海の家を会場とした「夏休みワークショップ」を開催しました。今回は生涯学習奨励員協議会との共催とし、奨励員の方たちを講師に迎え、貝がらとシーグラスを使ったフォトフレーム製作を行いました。12名の小学生とその保護者が参加し、自然の貝がらの色や形を観察しながら、気に入った素材を選んで思い思いに仕上げました。

貝がらやシーグラスなどの材料は、男鹿の海岸で拾ったものを使用しました。材料は、海を家の経営者でもある奨励員の会長が、これまで集めていたものです。奨励員は文化祭で市民にもものづくりを教える活動を恒例としてきました。しかし、ここ数年は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から活動を中止していたため、ものづくりを教える活動を再開する場を検討してきました。

今回の自然体験や地域の方との交流は、子どもたちにとって夏休みの思い出でもあり、奨励員にとっても学びを生かす場となりました。



潟上市

『潟上市民ミュージカル 「リキノスケ、走る！」』

潟上市では、11月5日（土）、6日（日）の2日間、市民センター「かたりあん」・天王館にて、「潟上市文化祭」を開催しました。今年の文化祭における目玉イベントの一つが、市民参加型ミュージカル「リキノスケ、走る！～潟上市民バージョン～」です。劇団わらび座指導の下、17名の潟上市民が5か月にも及ぶ練習の末に創り上げました。

このミュージカルでは、郷土の偉人・石川理紀之助の半生が描かれています。鑑賞に訪れた市民の皆さんの中には、上演終了時に目に涙を浮かべる方も見受けられました。

ミュージカルの動員数は212人、文化祭への来館者数も延べ1,561人と大盛況の内に今年度の文化祭は幕を閉じ、市民の皆さんの生涯学習への関心の高さを再確認することができました。今後も本市では、市民の皆さんが積極的に参加したいと思えるような生涯学習の機会及び文化祭を充実させていきたいと思います。



五城目町

『みんなの学校』

改築された五城目小学校と地域図書室を中心に「大人も通える小学校」をテーマにしたミニ講座、その名も「みんなの学校」を開校しています。この事業では、子どもの教育と大人の教育の境界線を越えた学びと出会いを創出し、地域の豊かさを求めています。全町民を対象に、年間30講座を目標として実施しています。

10月14日に開校した「みんなの学校」は、これまで月平均4講座を実施しています。五城目小学校と連携して小学校授業を一般向けに開放した講座や放課後子ども教室推進事業「わらしべ塾」とコラボした講座など、まさに「0歳から100歳以上でも通える学びの場」となっています。講師の方々も豪華なラインナップとなっており、受講者の皆様から高い評価を得ています。

この「みんなの学校」が地域の教育力の起爆剤となり、活性化につながることを期待しています。

※事業の概要や講座内容については、『みんなの学校ホームページ』より御確認下さい。



井川町

『井川町選書ツアー』

井川町では読書推進事業の一つとして、選書ツアーを行っています。今年度は10月2日（日）に開催し、町民13名（うち小学生2名、中学生1名）が参加しました。午前中は秋田県立図書館で選書に関する講座を受講し、その後館内の見学をしました。普段は立ち入ることのできない書庫に案内してもらい、貴重な資料や歴史ある書物を拝見することもできました。

お昼休憩をはさんで午後からは、いよいよ選書のスタートです。秋田駅前のジュンク堂秋田店さんにも御協力いただき、書店に並んでいる本の中から選書をしました。選書は一人2冊までとしており、参加者の皆さんは吟味しながら選書していました。

選書していただいた本は、後にポップ（本の紹介カード）とともに提出していただき、現在は井川町公民館図書室の特設コーナーに展示しています。十人十色のポップが並び、本の貸出も大人気、話題沸騰中です。

選書ツアーは、町民の皆さんが公民館図書室をより身近に感じ、読書に親しむことのできる事業だと実感しています。



八郎潟町

『図書館セミナー』 「未来へのライフスタイル～ものづくりな生き方～」

当館の図書館セミナーは、地域の図書館が日常の暮らしの中で身近な存在であることを知っていただくために、毎年1回、様々なテーマを取り上げながら開催しています。

第8回目を迎えた今年度は、本町役場新庁舎オープン記念・公民館連携企画として、7月31日（日）に農村環境改善センターにおいて、講演会とパネルディスカッションの2部構成で行いました。

講演会の講師には、手芸男子として本を出版されているバリトン伊藤氏を、パネラーには木村友治・郁代夫妻（八峰町手這坂在住）と山田健太郎・美奈子夫妻（北秋田市阿仁在住）の若い世代の御夫婦2組をお招きし、自分たちが暮らしの中で展開している「ものづくり」の視点から、そのライフスタイルについて講演、発表していただきました。

パネラーの郁代さん、美奈子さんは、ともに本町出身という親近感もあって、約100名の参加者が、セミナーを楽しみながら、自分事として未来へのライフスタイルを再考する貴重な時間となりました。



大湊村

『大湊村二十歳のつどい』

8月12日（金）、ホテルサンルーラル大湊において「令和4年大湊村二十歳のつどい」が挙行されました。今年度より成人年齢が18歳に引き下げられたことにより、式典の名称も「大湊村成人式」から「大湊村二十歳のつどい」に変更して、初めての式典となりました。

今年度は32名が式典に出席し、級友や懐かしい恩師との再会を心から喜んでいました。

出席者代表からは「二十歳という大きな節目を迎え、今後どのように社会に貢献していくのかよく迷い、後悔のない日々を送ることができるよう、自分の未来に自信をもって歩み続けていきたい」と、力強い誓いの言葉が述べられました。

これからの大湊村を担っていく若者たちのたくましさや覚悟を感じることができた1日となりました。二十歳を迎えられた皆さん、おめでとうございます。今後の活躍を期待しています。



由利本荘市

『大人の登校日

～ゆり支援学校へ行ってみよう！～』

授業や体験活動を通して、1日だけ小学生を体験することをコンセプトにした「大人の登校日」を年に3回開催しています。今年度第2回目はゆり支援学校を会場に、障害者理解について学習しました。

1時間目は、小学部、中学部、高等部それぞれの教育目標と児童生徒の様子を動画や写真を交えて紹介して頂きました。2時間目は、実際に高等部の生徒が先生役となり、ハックルベリーの摘み取り体験、木製マグネット製作、ビーズアクセサリ製作を行いました。

参加者からは、「子どもたちと関わりながら、普段の様子を聞くことができる貴重な体験だった」「障害の有無に関わらず、全ての子どもたちに必要な教育が行われている場だと思った」といった感想をいただきました。今後もゆり支援学校とのつながりを大切に、障害者の生涯学習の推進や本事業を通じた地域の皆さんの学習意欲の増進に努めたいと思います。



にかほ市

『地域防災講座・研修を実施して』

当市出身の防災士・ローカル防災クリエイターとの出会いから、地域及び現代的課題「防災」をテーマに、子育て世代、小学生、高齢者、公民館職員と、それぞれに適した内容を考え、次のような講座・研修を実施しました。

- ・避難するときに防災リュックに何を入れますか（子育て世代向け）
- ・ゲーム「防災すごろく」を使って問題解決しよう（小学生向け）
- ・自分自身がとる防災行動（マイ・タイムライン）を作成してみよう（高齢者向け）
- ・避難所をどう運営するか、カードゲームで模擬体験しよう（公民館職員向け）

まずは、課題について考えを書き出してみることから講座・研修はスタートしました。防災・減災は「自助（自分自身や家族）・共助（地域）・公助（行政）」が重要なポイントです。

誰もが安心して暮らせる街にするためにも、今後は、市民向けに加え、私たち職員向けの講座・研修も企画して、継続して取り組んでいきたいと考えています。

